

教会短信

2008年2月10日

No. 19

牧師 間瀬 善彦

「週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た」（ヨハネ福音書20章1節）。

イエス・キリストの存在の偉大なことは、十字架の死によってその生涯が終わらなかったことです。死は眠りにすぎないと言われたイエスが十字架にかけられて死んだのです。弟子たちは自分たちの身にも危険が及ぶのではないかと恐れ、失望の中に落胆していました。

しかし、十字架上ですべてが「成し遂げられた」と宣言されたイエスは、3日目に死人の中から復活され、弟子たちの前にご自身を現されました。そして私たち人類の最大の敵である罪と死に打ち勝たれました。復活のイエスに出会い、弟子たちは変えられていきます。新しい喜びに満たされ、大胆にイエス・キリストの福音を宣べ伝えていくことになるのです。

マグダラのマリアもそうです。イエスを慕う思いから墓を見に来たのですが、イエスの遺体がありません。最初は誰かが遺体を別の場所に移したのだと思い、復活のことなど考えようとしました。マリアは復活のイエスを捜していたのではなく、イエスの遺体を捜していたのです。イエスが生前予告されていた復活をされるという言葉をおぼえていたのです。しかし、そのマリアに復活のイエスにご自身を現わされました。マリアの喜びはいかばかりであったことでしょう。マリアはこの喜びの知らせを人びとに知らせるためにすぐに出かけていきました。

私達も復活のイエスを捜しに行きましょう。私は皆さんにもイエス・キリストと出会っていただきたいのです。イエス・キリストは、私たちの人生の救い主です。この方に従う者には失望がありません。あなたの人生が変えられるほどのこの上なき良き出会いとなることでしょう。

イースターのご案内

・イースター礼拝

3月23日（日）10:30～



私は、なぜ教会に行くのか？

誰からも強制されていないのに、私は毎週日曜日に教会の礼拝に参加している。友人に「なぜ？」と問われることがよくある。今日はそれに答えてみたい。

まず第一に神様から呼ばれた者として（ほんとうは皆が呼ばれているのだが）、「はい、ここにいます」と返事をしたい。また、同じように神様から招かれている仲間と共に心を合わせて祈ることである。

第二に聖書の御ことばの意味をより深く知ることが出来る。神様が私たち人間にどのようなことをお望みなのか、礼拝で牧師のお話を聴いていると良くわかる。

第三に奉仕の喜びがある。教会はイエス・キリストの福音を世の人々に伝える使命があるので、そのためのさまざまな仕事がある。それを能力に応じて皆で分担する。それを小さな仕事でも参加できれば大変うれしい。

最後に私がどうしても教会へ足が向いてしまう理由がある。それは信仰の仲間たちに会えるからである。彼らの人間関係は世間で出会う友人や知人たちと少し異なる。社会的地位、名声、お金持ちであるかないか、などにお互いに無関心である。その人の存在そのものを大切にし、あるがままに受け入れる。それは神様がそのようにこの世に存在させたのだから。そのため、地位も、特別な才能もない。平凡な一人暮らしの老人である私を温かく受け入れてくれる。

この信仰の仲間たちと心を合わせて祈るとき、そこに主イエス・キリストがともにいる喜びを感じるからである。それは論理による判断でなければ、感情の高ぶりから生まれる幻想でもない。人間の知恵をはるかに超えた何かに導かれていることを実感できる。

礼拝で神様の愛をお互いに確かめあった私は、喜びに満たされて、「今週もこの喜びを確かに伝えることができますように」、と願いつつこの世の日常生活の場へ帰っていく。

T. K.

[教会歳時記]

受難と復活！イースターについて

「苦しい時の神頼み」という言葉がある。それでも神様は救ってくださる。

「悩みの日にわたしを呼べ、わたしはあなたを助け、あなたはわたしをあがめるであろう」(詩篇50:15)と、聖書は言われる。受難の日があるからこそ、復活の日がある。

今年も、イースター(復活祭)がやって来る。春分の日以降の、最初の満月の日の、次の日曜日、今年3月23日主の日がイースター、即ち復活の日である。従って受難の日は、3月21日ということになる。御自分は罪なき身でありながら、罪多き人間の身替りとして十字架刑の苦難を受けられてから、3日目に復活されるのである。

イースターは、イエスの復活を記念すると共に、春の訪れを告げる祭典である。この日こそ、クリスマス(イエス降誕の日)と並ぶキリスト教最大の祝日である。否、商戦に煩わされない教会の本当の祝典の日とも言えるのでは…。北欧の国々ではこの日から雪に鎖された冬から解放され、観光施設などもオープンすると聞く。

教会では、イースター礼拝を行い、主の復活という奇跡を讃え、祈り、彩色した玉子などで祝う仕来りがある。

聖書の中に「使徒行伝」という部分が4福音書のあとにあるが、それによれば、復活したイエスについて書こうとしたのが、福音書の意図であったと言われる。

何はともあれ、身替りの刑を受け、十字架の責め苦により死に陥り、そして3日目に死者の中から復活するという奇跡・劇的なこの出来事を信じるからこそ、キリスト教の意義である、その復活を祝すのがイースターということである。

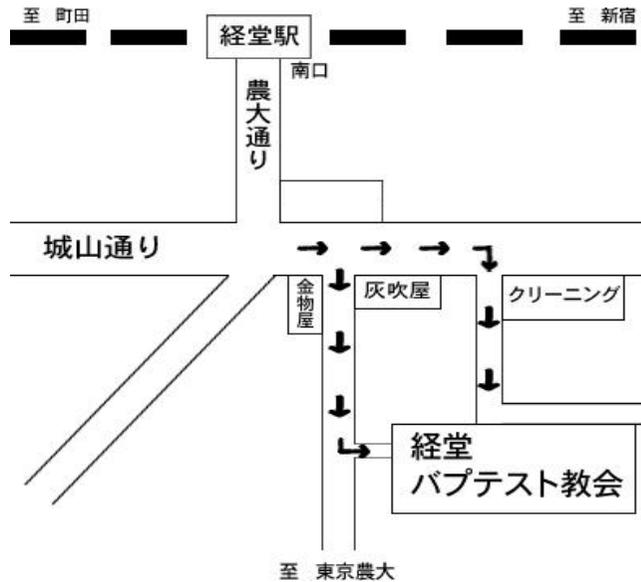
「キリストが聖書に書いてあるとおり私たちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたこと」(コリント第一15:3~5)。

聖書にはその様子をこのように記述されている。その意図は、神は私たちの罪のために死んだキリストを復活させ、救い主とされた。キリストの死と復活によって、私たちの罪は赦され、神との和解の道が開かれたということである。少々理屈っぽくなったが、この世的常識ではあり得ない。想像を超えた奇跡がおこり、その後の人類の生活は形成され、そして、主は今も私たちと共に生きていて下さる。その起源ともいべき日が、イースター(復活祭)である。

否定される方も多い現状であるが、世界の人類の過半数はそれを信じて、神に守られ生きているのである。

集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時 ～ 2時
聖書研究・祈祷会	水曜日	午後 7時30分～ 8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。